

御殿場市国際交流協会だより

THE TOURS TOURS



今年は、市内在住6ヶ国(ブラジル、ペルー、アルゼンチン、中国、スリランカ、日本)107名が参加しまし た。ブラジル人の皆さんからブラジル流バーベキューについて説明していただいた後、参加者は本場の味を 楽しみながら、お互いに自己紹介をしたり、相手の国の話を聞いたりして賑やかに交流していました。また、 抽選会や子供たちのスイカ割りに大きな歓声が上がり、最後には会場が一つになったようでした。協力して いただいたブラジル人の皆さん、ありがとうございました。

「GIA College: ハングル・スペイン語」

ハングルとスペイン語の初級者向け講座が行われました。

ハングル

講師:林 泓汝先生





9月5日(木)~11月14日(木) 19時~20時30分 (全10回)

スペイン語







9月5日(木)~11月7日(木) 19時~20時30分 (全10回)

お勤めしている方、主婦の方、定年退職後に新しいことを始めたい方、語学に興味のある方、次回の参加をお待ちしています。

☑ 語学講座

御殿場市民会館 第7会議室

「基礎から学ぶシニアのための旅行英会話」

9月25日(水)・10月23日(水)・11月27日(水) 14時~15時30分

講師: ハリウェル・パトリック氏 (新橋在住)

今回の講座は、御殿場市在住のハリウェル・パトリックさんを講師に迎え、英語の基本的要素を理解し、海外旅行で役立つ単語と言い回しの覚え方や使い方を学んでいます。英語は日本語より母音が多く、日本人にとって難しい発音があります。それを理論ではなく、実際に耳で聞き、声に出して繰り返し練習することが大事だと教えていただきました。





ハーモニカの貴公子 「Joe Powers ハーモニカコンサート in ごてんば」

日 時: 平成25年12月8日(日) 14:00開演(13:30開場)

会場:市民交流センターふじざくら 交流ホール

出演:ジョー・パワーズ氏

内 容: 姉妹都市ビーバートン市から、ジョー・パワーズ氏を 再び迎えてのコンサートです。前半に「ハーモニカ同

好会たんぽぽ」の皆さんの演奏があります。

入場料: 大人 1,000円 小中学生 500円 問合せ: GIA事務局(TEL:0550-82-4426)

国際交流フェア 2014

日 時:平成26年1月13日(月·祝) 11:00~

会場:御殿場市民会館 小ホール

内 容:世界各国の料理とステージパフォーマンス

エミズタップダンス教室と田代フラメンコ教室の

皆さんが出演します。

第19回 日本語で話す会

日 時:平成26年2月9日(日) 10:00~12:00

会場: 玉穂報徳会館 区民ホール(市役所玉穂支所)

第8回 中学生英語スピーチコンテスト

日 時: 平成26年2月9日(日) 14:00~16:00

会場: 玉穂報徳会館 区民ホール(市役所玉穂支所)

どうぞよろしく





сайн байна уу?

面積: 156万4,100㎡(日本の約4倍) 人口: 286万8,000人(2012年現在)

首都:ウランバートル 人種:モンゴル人(95%)及びカザフ人等

言語:モンゴル語、カザフ語 宗教:チベット仏教(憲法は信教の自由を保証)

通貨: トゥグルグ (100Tgが約6円)



(新橋在住)

モンゴルってどんな国?

笑顔がすてきなオギさん

私はモンゴルのウランバートル出身です。皆さんは、モンゴル=草原での遊牧生活を思い浮かべると思いますが、ウランバートルは都会で生活のスタイルは日本とそれほど変わりません。

モンゴルの夏は草原が広がり、夜は星がとてもきれいです。 冬は寒くてマイナス30度くらいまで気温が下がります。雪が たくさん降り、とても強い風が吹きます。

モンゴルの有名人といえば、「チンギスハン」です。世界中の人たちが彼のことを知っているので大変誇らしいです。それから、最近ではモンゴル出身の力士達が注目されています。モンゴルの男性は朝青龍のようなタイプが多いです。白鵬はどちらかといえば日本人の性格に近いと思います。

モンゴルでは伝統を大切にする考えから、お正月とモンゴル最大のお祭りである7月11日の革命記念日(ナーダム)には、民族衣装を着るという習慣があります。伝統を重んじるとともに自分の国を知ることにもなります。

そういえば、モンゴルの民族衣装のあわせは日本の着物と同じです。こんなところにも共通点があるのですね。

モンゴルの人たちはたびたび引っ越しをします。日本では 一つの所に長く住む人が多くて驚きました。

食べるもの

モンゴル料理は塩味のものが多く、甘いものはあまり食べません。また、固いものが多いです。そのせいか、糖尿病にかかる人が少ないです。

肉はよく食べます。羊肉、牛肉、それから馬肉も食べます。羊は塊で煮たものを切って、いろいろな料理に使います。馬肉は身体が温まるので冬に食べます。お祭りのときにはボウツという肉まんを作ってお客様を迎えます。

モンゴルは海がないので魚はほとんど食べません。川魚を 食べる人もいますが、私は魚が苦手です。また、野菜が豊富に とれる地域ではないので、野菜は不足しがちです。

モンゴルでは、うどんのような麺に肉や野菜を入れたものをよく食べますが、「ホウトウ」といいます。山梨の「ほうとう」と同じ名前ですね。

富士山に魅せられて

モンゴルでは日本のテレビ番組がたびたび放送されます。 子供のころテレビで富士山を見て、なんてきれいな山だろう と感動し、日本への興味がわきました。その後、「ひとつ屋根の 下」というドラマを見て、いつか必ず日本に行こうと心に決めました。

モンゴル国

ウランバートル

モンゴル

22歳の時、モンゴル美術大学在学中に山梨大学との共同展覧会を開くことになり、憧れの日本、しかもそのきっかけとなった富士山のふもとに来ることになりました。本当にうれしかったです。展覧会をきっかけに山梨大学に編入、その間に知り合った夫と結婚して山中湖村に住むことになりました。

富士吉田にある日本語教室に通い、家では「サザエさん」などのアニメを見て日本語を勉強しました。特に「サザエさん」は日本の生活習慣や季節の行事なども理解できるので、とても良い番組だと思います。

当時同居していた義母は、毎朝富士山に手を合わせて拝んでいました。彼女は富士山のことをたくさん教えてくれました。

モンゴルの家族のこと

父は8年前に亡くなりましたが、兄と弟はモンゴルに、母と姉と妹はフランスに住んでいます。母とは携帯電話でお互いの顔を見ながら、毎日のように話をしています。母は日本に来たことがないので、いつか日本に連れてきて富士山を見せたいです。

御殿場にて

昨年の12月に夫と2人の子供と一緒に御殿場に引っ越してきました。そしてハッピーという犬も家族に加わりました。現在は家の近所にあるドーナツショップで働いています。ひとりでドーナツを作れるようになり、いつまでもこの仕事を続けたいと思っています。

御殿場は便利で住みやすい町です。友達もたくさんできました。皆さんとても親切で、私の日本語の発音が分かりにくいときは、想像しながら「こういう意味ね」と確認してくれます。いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

今は子育てと仕事で忙しい日々ですが、いつかまた絵の勉強を再開できるように頑張りたいと思います。





家族とディズニーランドで



海外レポート

青年海外協力隊員として ウガンダで活躍された高橋永知さんからのレポートです。



HIV(ヒト免疫不全ウィルス)感染者と共に闘う 高橋永知さん (二子出身)

〈人生の転機〉

ある肌寒い日、真っ黒に日焼けしたタンクトップの 男性が、私の働く洋品店に来た。話を聞くと、男性は 最近までアフリカに行っていたので、寒さを凌げる服 を持ってないという。なぜアフリカに行っていたのか をたずねると、「青年海外協力隊って知っています か?」と逆に質問された。この言葉が私の後の人生を 大きく変える事となった。しばらくして看護学校を受 験する事を決心し、働きながら1年間受験勉強に打ち 込んだ。元々人と接するのが好きだし、やりがいのあ る仕事だと思っていたからだ。そして、看護師になっ て協力隊として世界で活躍したかったからである。

看護学校に入学し3年間の学校生活を経て、看護師になり2年が過ぎたが、協力隊への憧れは一瞬も消えた事がなかった。

〈HIVと闘う日々〉

その憧れが2010年10月に実現した。青年海外協力隊の感染症対策隊員として、東アフリカ、ウガンダのブシア県庁保健課に配属となった。ケニアとの国境に近いため、長距離トラックドライバーを狙った売春や、麻薬売買による感染症が問題になっていた。特にHIVに関しては他の地域と比較しても感染率は高く、若年層への啓発が重要な鍵であった。



子供たちにHIVの怖さを教える

私はこの地で2年3ヶ月の間、多くのHIV感染者と 共に住民への啓発ワークショップをはじめ、世界エイ ズデーでのイベント開催などを行なった。また、日本の 看護学校や祭り会場とウガンダを映像通話で結び、 HIVやお互いの文化についてのディスカッションなども 行った。

ディスカッションを行う中で、環境の違いによる人々のHIVに対する意識の差を改めて実感した。日本は先進国の中でも唯一HIV感染率が増加していると言われており、判明しているだけで感染者数は2万人を越える。「他人事ではない」それをウガンダ、日本に関わらず人々に伝える事が最も重要であると感じている。

〈ウガンダでの生活〉

ウガンダでの日常生活に関しては、雨水を煮沸して飲み水にする、その水で身体を洗う、雨の少ない乾季には井戸で水を汲み、電気がない日はろうそくに火を灯し、石の入った米を選別して炭で飯を炊く等々、生活は確かに不便であったけれど、それはとても幸せな生活だった。その理由は2つ。1つは自分の夢であったから。もう1つは、現地の人々にとってはごく当たり前の生活であり、彼らはそれを不幸とは感じていなかったからだ。

幸せの指数は人や国によって異なるが、「自分自身にとっては一体何が幸せなのか」を、ウガンダの生活で考える事ができた貴重な時間であった。

(帰国して)

協力隊としての任期を満了し帰国した今、私は東京の大学院で「公衆衛生」を勉強している。それはまたいつかどこかで、地域の住民と共に、彼等の家族や仲間を感染症の脅威から守るという、自分にとっての幸せを叶えるための一歩となっている。

時々振り返る事がある。もしあのタンクトップのお客さんが店に来ていなかったら・・・。海外との関わりであれ、あらゆる事のきっかけは日常生活のささいな時間にあると、今でも強く思う。

富士山世界文化遺産登録と2020年東京 オリンピック開催の決定で、御殿場市にも、海外から多くの人々 が来訪する事でしょう。本誌『ゆうあい』が少しでも市民の皆様 の国際理解を深めるお役に立てば嬉しいです。 T.K

御殿場市国際交流協会(GIA)事務局

〒412-8601 御殿場市萩原483(御殿場市役所1階 市民協働課内) TEL: 0550-82-4426/FAX: 0550-81-6439

E-mail: gia@mail.wbs.ne.jp

URL: www.city.gotemba.shizuoka.jp/gia/